

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所理念は玄関や事務所に掲示している。職員間で、事業所理念について、どのように捉えているか、考えたり、共有する機会が十分ではないため、今後、実践に繋がるよう、ミーティング等で理念について再確認を行う必要がある。日々の業務をこなすだけになっている事がある。新人研修では理念、方針について伝えている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自治会に加入し、運営推進会議や防災訓練に参加してもらい、協力体制ができている。利用者の地域交流はまだ十分できていない為今後交流を図っていく。	お祭り行事(子ども神輿等)が暑さもあり、中止になることが多くなった。事業所にて、昨年、裸坊祭りに職員が参加した際、利用者に見学してもらったり、地域の行事に参加を行っている。		GH内で、夏祭りや忘年会、誕生日会等、イベントを行っておられます。自治会に加入され、地域の方が運営推進会議や防災訓練に参加され、繋がりができているように感じます。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議では委員の皆様へ利用者の現状報告やサービスでの取り組み、課題について、報告、相談している。会議には利用者、管理者、主任、主任補佐が定期に参加し情報共有を行っている。利用者の参加時は、サービス状況の意見や評価をもらっている。地域の方との交流にも繋がる為、継続して利用者の参加ができていければと思う。	入居者状況の報告や課題について、詳しく報告されている。利用者さんも参加されるようになり、どのような方が利用されているのか、知る機会となった。		管理者を中心によりよいサービスに向けて取り組んでいる。運営推進会議の参加も、管理者中心であったが、少しずつ利用者さんや他職員の参加も行っておられる。

4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者を中心に情報や相談等、連絡を取り合うと共に、市からの見学、現場職員の生の声をとのことで聞き取りがあった。実際の現場の様子を知ってもらうとともに、課題についても、協力できることはないか、今後も連携を深めていきたい。	グループホーム連絡会、福祉祭りの参加等、行政との連携もできている。今後も防災関連含め、連携が図られるとよい。		連携が取れていると感じる。防災のことなども、市町村と自治会、施設等、共通で話す場があるとよいと感じる。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束適正化会議を年に4回実施。研修については、全体ミーティングの際、高齢者虐待防止研修を行った。今後、より理解を深めるためにも、グループワーク等も検討していきたい。玄関施錠については、帰宅願望の強い利用者の対応のために、現在、切迫時は施錠をしている。開錠については全体ミーティングの際に検討を行っている。転倒、転落等の切迫性のある方へは家族に了承を得て、センサーマット等で対応し、その都度見直しを行っている。		A. ①充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	あまりできていないとの評価であったが、十分対応されていると感じる。スピーチロックについては、入所者への声掛けについて、職員間で話し合える場が大切と感じる。身体拘束についての適正化会議や高齢者虐待防止対策について、検討を行っている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	ミーティング時に高齢者虐待防止研修を実施。管理者からの伝達講習が中心のため、今後は、グループワーク等、職員の意見交換を行う場も必要。職員はひやりハット報告書、事故報告書を用いて、情報共有が出来るよう、業務日誌にファイリングし、全員がサイン、確認を行う。まだまだひやりハットも十分活用できていないので、今後、活用方法を検討。		A. ①充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	実際、ヒヤリハットが生じた時に迅速な報告を受けたことがある。誠実な報告と対応、謝罪を受け、満足した。

7	権利擁護に関する 制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護事業や、成年後見制度について、活用しておられる利用者があったが、制度の理解について、職員が学ぶ機会を作っていく必要がある。成年後見の相談等があれば、関係機関への連絡、調整を行うと共に、必要な場合等、関係機関へ相談し、対応している。			
8	契約に関する説明 と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時、内容に関して不明な点がないか、随時確認しながら説明し、同意を得ている。改定時についても、同様である。家族が不安や疑問に思うことがあれば、随時、気軽に相談できるような雰囲気作り、関係作りを心掛けている。			
9	運営に関する利用者、 家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の生活の中で利用者本人からの意見、要望について、話しやすい関係作りとともに、家族との電話連絡時等の意見、要望の内容を、情報共有している。必要に応じて、全体ミーティング後の際に検討を行っている。玄関には意見箱を設置している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族からの要望について、何とか実現しようとされている。色々と工夫もされている。 ていねいなコミュニケーションをさせて頂いている。(面会時、電話やLINEの写真送付等)
10	運営に関する職員 意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者が意見収集等行い、運営に関する意見や提案を聞いている。個別面談は希望時のみで、定期的には行っていない。年1回以上の面談の体制作りを検討している。職員は代表者に会う機会がほとんどないため、意見が届きづらい状況にある。			

11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員一人ひとりの年度での目標シートを活用している。 人事考課制度構築に向けて、準備、検討を行っている。職員からの意見等、必要時は管理者から代表者へ相談を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職場環境整備を今後も行って下さい。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設外研修について、職員からの受講希望や管理者から研修の情報発信等を行い、要望に応じて、受講できるように検討している。個人目標シートを作成し、実施。職員間で目標の内容や取り組みに差があり、また施設内外の研修参加も課題である。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修に参加は難しい面（人材不足）もあると思われるが、シートを利用して達成度など確認をされている。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	グループホーム協会や同市内での交流も、管理者が中心で、職員参加があまりできていない。他事業所の取り組みを知り、視野を広げるとともに、法人内でのグループホーム合同の学習会等も検討していく必要がある。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の残存機能や生きがい、楽しみとなることを検討している。また、得意だったことや大切にされてきたことは、教わる場面を作ったり、利用者の生活歴を把握しながら、関わりを大切にしている。意思疎通が困難な方であっても、声掛けを大切にし、寄り添う支援を行っている。 利用者主体の観点での取り組みがまだまだ十分とは言えないが、職員間で情報共有しながら、どの			

				場面でできるか、検討していきたい、			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に馴染みのある家具や品物を出来るだけ設置している。コロナ禍以降、状況に応じて、家族等の面会の形態を変更しながら、対応している。馴染みの人や場所への支援は、家族が中心で、家族以外では、十分行えていない。生活歴の見直しや家族面談、本人の言葉から、活用できることはないか、考えていきたい。	個別支援でご家族との外出や自宅への帰省等、コロナ禍以降、制限はある中で、状況に応じて、対応されていると思う。		
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	2ヵ月に1回のミーティング内で意見交換を行っている。個別支援の計画と家族面談の実施をしている。本人、家族の思いを汲み取り、しんでもらえる支援を考え実施していく事や個別の家族面談を実施し、本人、家族の思いをきいて介護サービス計画に反映させる事、看取り等の意向も確認している。可能なご家族には、センター方式の書類の記入をお願いし、生活歴やなじみの暮らし等、活用している。思いや希望に添ったケアが出来るように職員間で日々検討している。意思疎通困難な方については、思いを押し量りながら、家族とともに、支援方法を考え実施している。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディ	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	アセスメントシートを活用、課題を整理し、ケアの方法について、介護計画書を作成している。担当職員によって、毎月のモニタリング表の	ケアプランの意識づけのための取り組みをされている。	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご家族との面談を通して、ご家族の意見や利用者の希望が反映されるように、検討を行っておられる。面会

		アを反映し、現状に即した介護計画を作成している		記入を行っている。ケアプランの意識付けに向け、検討を行っている。			の際などに、日々の様子を細かく教えてくださるので、助かっている。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の申し送りを大切にし、個別記録、業務日誌と合わせ、職員が気づいた点などを職員間で共有できるようにしている。個別記録用紙の変更を行い、ケアプランの欄を設け、ケアプランの記録は緑色で記入し、ケアプランの意識付け、見直しに活かしている。記録漏れが無いよう意識付けする。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	面会時、大体どのスタッフも様子を理解してくださっている手応えはあるように思う。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体状況や介護度の変化等、状況に応じて、家族と随時相談し、対応している。柔軟な支援や多機能化について、具体的にはどのようなことができるか、他事業所の取り組みを知る機会も必要である。	ご家族との面談等を含め、日々のケアの充実を図るため、またニーズに対応した取り組みについて、検討している。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	防府天満宮に近く、桜まつり、花回廊、花火、裸坊祭り等、関連する行事の際は、参加している。昨年は裸坊祭りには男性職員が参加し、各事業所を回り、利用者が応援する場面があった。昨年度から家族とお花見や個別での外出（自宅への帰省、コンサート等）を少しずつ実施している。どのように取り組んでいくか、役職者で検討を行いながら、担当職員が計画し、実施できるように検討している。（日曜日を個別支援の日に活用等。）施設内でできるイベント（食事作り、誕生日会、納涼祭、敬老会、クリスマス会）についても実施している。	近隣で参加できるイベント等に参加されている。個別支援の充実にも力を入れておられる。		

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の医療機関と看取り支援まで可能な協力体制作りを行っている。利用者や家族の希望に添えるよう、看取り支援についての書類を作成し、主治医へ情報共有を行っている。家族の協力の元、通院していた病院に受診している利用者もいる。必要に応じて、主治医の説明を受ける機会や他医療機関や専門医への受診の支援、訪問看護との連携を行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時は看護職員、管理者または介護職員が家族と同伴し、情報提供書の持参、口頭での聞き取りに対応している。入院先の医療機関や医療機関の地域連携室との連携を図るため、また、退院調整ができるよう、情報交換を行うと共に、相談を行っている。		A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院の機会がないため、記述が難しいです。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時、重度化指針の内容をご家族に説明している。GHでできること、メリット、デメリットについても、説明し、入居後も状態が変化した際は、再度意向の確認、面談を行っている。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	過去、父の終末に際して、十分だったと思います。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変対応マニュアルを作成し、急変時は迅速に対応できるよう、電話横に配置している。看取り期の利用者の起こり得る内容、観察のポイント等について、看護師から助言をもらって個別に作成している。急変対応、応急対応についての研修や訓練の定期的な実施ができていないため、課題である。			

25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	避難訓練は年2回実施している。また年1回の防災訓練を行っている。訓練時は利用者の参加を計画し、事故の無いよう配慮し実施をしている。災害時における、起こり得るリスクについて、随時検討し、実施している。地域防災部の方々との合同防災訓練については、昨年実施は雨天の為中止となったが、今年10月実施予定し、継続実施していきたい。	年2回の避難訓練も、地域とともにやっておられる。自治会の高齢化に伴い、見学や玄関先での見守りを行ってもらっている。施設の様子を知ってもらい、実際あつてはならないが、協力体制を作っておられるのはよいことだと思う。	A. ③充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議では、その計画や実施状況を共有し、地域の協力のもと、訓練を実施されている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりを尊重し、その方に応じた声掛けや対応方法を検討している。プライバシーの配慮のため、トイレ誘導時や入浴等の声掛けは個別に行うようにしている。		A. 充分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	病気、排便、薬等について、触れるときは、あからさまでない言い方をされる等、充分配慮されています。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	職員ペースで動いているときがある。利用者それぞれのペースに合わせ、個別対応が行える時間を少しずつでも作っていききたい。日頃より、利用者の要望、健康状態や精神状態の把握に努め、職員間でどのように実現するか、話し合い、実践していきたい。			

28	食事を楽しむこと のできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	重度の利用者が多かったときの名残から、調理職員が主に行っているため、食事の盛り付け、食器洗い等はできていない。朝食時やおやつ時などは、少しずつではあるが、実施している。できる利用者が少ない面がある。テーブル拭きや食器洗いなど、一場面でも一緒に行う支援を心掛けている。 また利用者より食べたいと希望があった献立について、食事作り等のイベントを起案し、実施している。		A. ③充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族の希望を快く受け止めてくださり、一手間かかることも労を惜しまず、積極的に取り組んでおられます。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事形態について、利用者の嚥下状態や口腔内の状態等、職員間で情報を共有し、看護師や協力歯科の歯科医師、歯科衛生士へ相談しながら、食事形態を決めている。 食事量、水分量については、個別記録に記入し、1日量の把握に努め、体調管理をしている。水分が足りない方は、その人の嗜好に合った飲み物を提供している。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎食後、口腔ケアを実施。それぞれに合った口腔ケア用品を使用。義歯を使用している方は、就寝時に声掛けを行い、洗浄剤につけている。協力歯科医院に往診時助言を受けている。		A. ③充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食後の手当て、歯肉炎に対しては歯科対応を依頼する等、柔軟に実施されています。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行い、自立支援を促す声掛けを行っている。パットの会社からの研修をきっかけに、パット交換の回数や時間、個々のパットの見直しを行った。排泄時間については、個人記録に排尿や排便		A. ③充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	薬に頼らない様、乳製品を取り入れる等、工夫をして頂いています。

				(形状を含む)、時間等記録し、排泄間隔を把握し、トイレ誘導、パット交換を行っている。			
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現在、午後からの入浴支援が主となっているが、利用者希望に応じた入浴支援を行っていきたい。入浴時は、羞恥心に配慮した対応を行うと共に、ゆったりと入れるように対応している。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間の睡眠状況や本人の体力等に合わせ、必要に応じて、自室やソファでのお昼寝支援などの声掛けを行っている。就寝中は、室温や布団の調整、生活習慣に合わせて、電気の光量の調整を行っている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員がいつでも確認できるよう、内服ファイルを作成、確認できるようにしている。薬の減薬、形状の変更、排便コントロールについて、看護師と連携を図り、随時検討、見直しを行っている。薬の目的、副作用等についても、今後も理解を深めていく必要がある。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりの状態に応じた薬について、看護師と連携を図っておられる。薬のファイルを整理し、管理されている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族からの生活歴の把握、職員間での共有不足があると感じる。今後の支援のために、入居時の情報収集や記録、日頃の生活の中で得た情報をどのように書き留めておくか、検討していきたい。利用者一人ひとりに合った役割や楽しみを持ってもらえるよう、生活の場でさまざまな関わりを検討している。	入居前のご本人の大切にしてきたことや、生活歴等、ケアに活かそうという取り組みられている。		

36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	気候が良い日など外気浴の実施やおやつを食べに外食する等実施をしている。利用者の希望に個別支援日常的な外出支援はできていない。昨年度より、家族との花見、個別外出等、少しずつ再開してきた。自宅への外出やコンサートへの外出等、個別性の高い外出も実施することができた。今後も個々の希望に応じて、家族の協力を得ながら、少しずつでも実施していきたい。また、日常的に買い物や近隣への散歩、庭に出て外気浴等を行い、気分転換を図っていきたい。	コロナ禍以降、外出が困難な時期もあったが、少しずつ再開され、個別の希望にも応えておられる。ご家族やご本人の希望が叶えられるとよい。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ☒ D. ほとんどできていない	日常にお金を持っている利用者がいない。一緒に買い物に行く際は財布を持ってもらい、会計をしてもらっている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族より電話があった際、家族希望があれば本人と話してもらっている。手紙をもらった場合等、居室に置いていつでも見返せるようにしている。家族からが中心であるため、利用者が望んだときにできる体制作りや、はがきや手紙を出す支援(年賀状、暑中お見舞い等)していきたい。			

39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている Ⓐ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	共有の空間は、関係性の構築のため、席の配置を検討したり、季節感に合った花を飾ったりしている。共有スペースが狭いため、食事や休息のソファの使用など、固定化している場合があり、どうしていくべきか、課題である。居室の表札は手作りで作成し、馴染みの家具や写真など持参してもらうようにしている。そのときの身体機能や状態に合わせて、配置についても、随時検討を行っている。馴染みの物を持ってきて頂く事で利用者が安心して暮らせる様取り組んでいる。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	季節に応じたしつらえ、入居者同士が混乱しないように、目印が見える化されるなど、配慮が行き渡っている。過去に利用者された方をしのぶ写真コーナーがあり、スタッフの方たちの「いつまでも忘れない」という思いで暖かさを感じる。
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の思いや願いに沿った暮らしが十分できているとは言えない。職員のペースで行っている面も多い。一人ひとりのペースに合わせ、どのように希望に沿った時間を作っていくかが課題である。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴、暮らしの習慣等、日々の何気ない発言や、情報も職員間で情報共有している。どのようにケアに活かしていくかが課題である。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	担当職員を中心に、生活の在り方について、多角的に検討、見直しを行っている。体調や変化を見逃さないよう、情報共有することで、日々のケアの見直しに努めている。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	面会時、対応して下さるスタッフは異なるにも関わらず、ささいな体調の変化に詳しく説明して下さり、いつも頭の下がる思いがしている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	体調や本人のペースを大事に関わっているが、さまざまな要因から、十分とは言えない面もある。個別支援やイベント開催など、で			

				きる限り行える環境作りや業務体制を行っていく。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自室内の物品については、できるだけ、本人の馴染みの物（家具や写真等）を持ってきてもらうようにしている。また、随時楽さん家で行ったイベント写真や家族との写真、プレゼント等設置している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所当時からずっと対応してくださっており、その後も家族からの手紙や写真を壁に掲示してくださっている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の意向、希望に沿った外出、買い物やイベント参加等の実施を行っている。少しずつでも実施を行っていききたい。	昨年度から少しずつ個別支援の充実を目指し、さまざまな関わりを行っている。今後もお願いしたい。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	情報収集を行い、生活の中で家事手伝いや、本人の楽しみ（編み物、折り紙、カラオケ、カルタ等）を支援できるよう、アプローチを行っている。今できる事を生かし笑顔のある支援を行っている。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	テレビの内容やアルバムを観ながら、回想する場面や、季節の話題等、短時間であるが行っている。今後、個別に関わる時間を作ることや、日中時間に、運動支援、口腔体操等共通支援の時間を作り、その中で関わりを深め、会話を行っていききたい。笑顔のある支援を行っている。		A. ①十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	笑顔を引き出すのは、本当に大変で実は家族は難しかったりする。それを心がけてくださっているだけで、家族の幸福につながる思いがしている。（できないことを代わりにしてくれているという意味で。）
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍以降、グループホームでの生活が中心であり、地域との関わりは限定的であった。今後地域との交流について、散歩や買い物等行く事で交流を図って行きたい。	利用者本人がやりたいことを中心に、散歩や買い物等を通して、近隣や地域の人と交流する機会が自然にできるように取り組んでいけるとよい。		

49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、一人ひとりとの関わりの中で、笑顔が増える関わりや、信頼関係を大切にした対応を常に意識し、行っている。毎日 1 回は笑い、安心できる生活支援を心掛けています。 地域の方々との交流や防災避難訓練等の実施、地域資源を知り、地域の防府天満宮や国分寺の行事に参加を行い、地域との繋がりを大切に、地域に溶け込んだ運営をしていきたい。 職員ペースでの時間の流れから、少しずつでも、利用者中心の生活に向け、何ができるか、業務改善や、職員の人材育成についても検討していきたい。	利用者一人ひとりの関わりの中で、楽しみや役割を検討しながら、行っておられる。できることを考えながら、ケアの充実とともに、人材育成についても今後も取り組んでほしい。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	間接的ではあるが、防災や行事への参加を通して、地域や職員さん以外の人や自然に触れられていると思う。安全や健康上の制約があるかもしれないが、機会を増やしてもらえることを希望しています。
----	----	---	--	--	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 24時間宅老所 楽さん家

作成日: 令和 7年 11月 13日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	12	職員を育てる取り組みについて、法人内外研修の参加が出来ていない。	法人内外の研修を受ける機会の確保キャリアアップの構築を促進していく。	職員一人ひとりの専門性向上を図る為、研修の参加の促進を行う事や、個人面談を通し一人ひとりの力量の把握を行い、個人の成長成果を目指す。	12ヶ月
2	24	応急・急変(初期)対応による訓練(演習を含む)の定期的訓練の維持。	事故防止の取り組みや事故発生時(急変含む)の備え知識・意識向上を目指す。	入居者の一人ひとりのリスク対応方法を検討し、看護職員による応急対応や初期対応についての説明・演習訓練を行なっていく。 外部研修等へも参加し、AED等の取り扱いを学ぶ。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

評価結果報告書

防府市健康福祉部高齢福祉課介護給付係 宛て

		提出日：令和 7 年 11 月 14 日
事業所名	24 時間宅老所楽さん家	
担当者名	池田 真司	
連絡先	24-6611	

運営推進会議等での評価実施日	令和 7 年 11 月 13 日
----------------	------------------

提出書類(対象サービスの□に✓印をして下さい)

☐ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
(別紙 1)自己評価・外部評価 評価表

☐ 小規模多機能型居宅介護(介護予防含む)
(別紙 2-2)事業所自己評価
(別紙 2-4)サービス評価総括表

☐ 看護小規模多機能型居宅介護
(別紙 3-3)運営推進会議における評価

☒ 認知症対応型共同生活介護
(別紙 2 の 2)自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

【提出先】

防府市健康福祉部高齢福祉課介護給付係
E-mail:kfukushi@city.hofu.yamaguchi.jp

評価結果報告書と提出書類をメールで提出ください。